

するのは後々都合が悪いと考えるのであろう。しかし、躊躇するのは男性より女性の方が多い。

「あなたは上司の家を訪問したことがありますか」という質問に対しては「1度もない」という回答が最も多く68.2%を占める。次に多い回答は1回で19.1%である。平均すると年1.44回である。この点に関して男女差はない。やはり上司との関係は職場内に限定されているようである。たとえ職場外で交際する場合でも上下関係はなく平等な立場である。

「あなたは上司とお酒をどの程度飲みに行きますか」という質問に対し最も多い回答は「年1度くらい」で46.4%で「全然飲みに行かない」という回答が次に多く43.2%である。日本人のように頻繁には飲みに行かないようである。やはり上司との交際は職場内の仕事関係に限定されているようである。しかし、1年に1度くらいは何らかの理由で飲みに行く機会があるのであろう。女性の方が全然飲みに行かないという割合は男性より多いが年に1、2回という回答に男女差はない。

「上司が混雑したバスに乗ってきてあなたが座っていたらどうしますか」という質問に対し「すぐ席を譲る」と回答した者は10.9%だけである。最も多い回答は「そのまま座っている」というもので45%である。しかし、「荷物を持ってあげる」という者が31.4%いるのは救いである。相手がたとえ上司でも会社の外では関係ないのである。早い者勝ちで先に来た者が座る権利があるというルールの方が優先するのである。男女別にみてもこのルールに関する考えに差はないが、女性の場合には荷物を持ってあげるという者が男性より多く、男性の場合には気分が悪くなければ席を譲るという者が11%いる。アメリカでは上司といっても男性とは限らないから上司が女性の場合には、上司と部下の関係より Ladies First のルールの方が優先され男性の上司は部下の女性に席を譲らなければならないのである。

アメリカは個人主義の強い国で個人のプライバシーは絶対を守るべきであると考えているのである。したがって、会社内での関係は仕事上だけに限定されているのである。たとえば「社員の結婚に関して上司は何をすべきだと思いますか」とい

う質問に対して、日本人は上司が仲人をしたりすることが期待されているが、アメリカではせいぜい職場の同僚たちからプレゼントがある程度である。実際にそのように回答した者が30%を占める。次に多いのは「頼まれればアドバイスをする」という回答が8.6%である。しかし、「そのような個人的な事に関しては何もしない」という回答が最も多く59.5%である。

B 同僚との関係

まず最初に「友人は何人くらいいますか」と聞いたら平均37.55人である。40歳台になれば友人の数もそれくらいにはなるであろう。しかし、女性の方が多く男性の場合には1-10人が最も多く40%を占める。この友人は職場以外の友人が多いと思われる⁹⁾。この友人のなかで何でも話し合うことができる親友は平均3.96人である。友人数は多いが親友は少ないのである。親友数も女性の方が男性より多く、男性には親友が1人もいないという者が7%いるが女性には4.3%である。

「もしあなたが怠けたら同僚が注意しますか」という質問に対しては最も多い回答は「注意しない」であり34.1%を占める。次に多い回答も「多分注意しない」で27.3%である。合計すると61.4%のアメリカ人は他人の仕事に関しては干渉しないのである。

では「あなたは同僚に仕事に関係のある個人的な問題を相談しますか」という質問に対して、男女共「緊急なら相談する」という者が最も多い。2番目は「非常に重要なら相談する」者が20.0%であるが、23.2%は相談しないと回答している。たとえ同僚でも個人的な問題は話したくないのであろう。だが仕事に関係のある問題では話さざるを得ないのであろう。

「あなたは同僚とお酒をどの程度飲みに行きますか」と質問したら最も多い回答は年に1、2度が40%、「全然行かない」という回答は次に多く29.5%である。職場の同僚とは日本人のようにお酒は飲みに行かないようである。行っても年に1度か2度程度である。日本人は仕事帰りに同僚とよく飲みに行くがそれとは大きな違いがある。